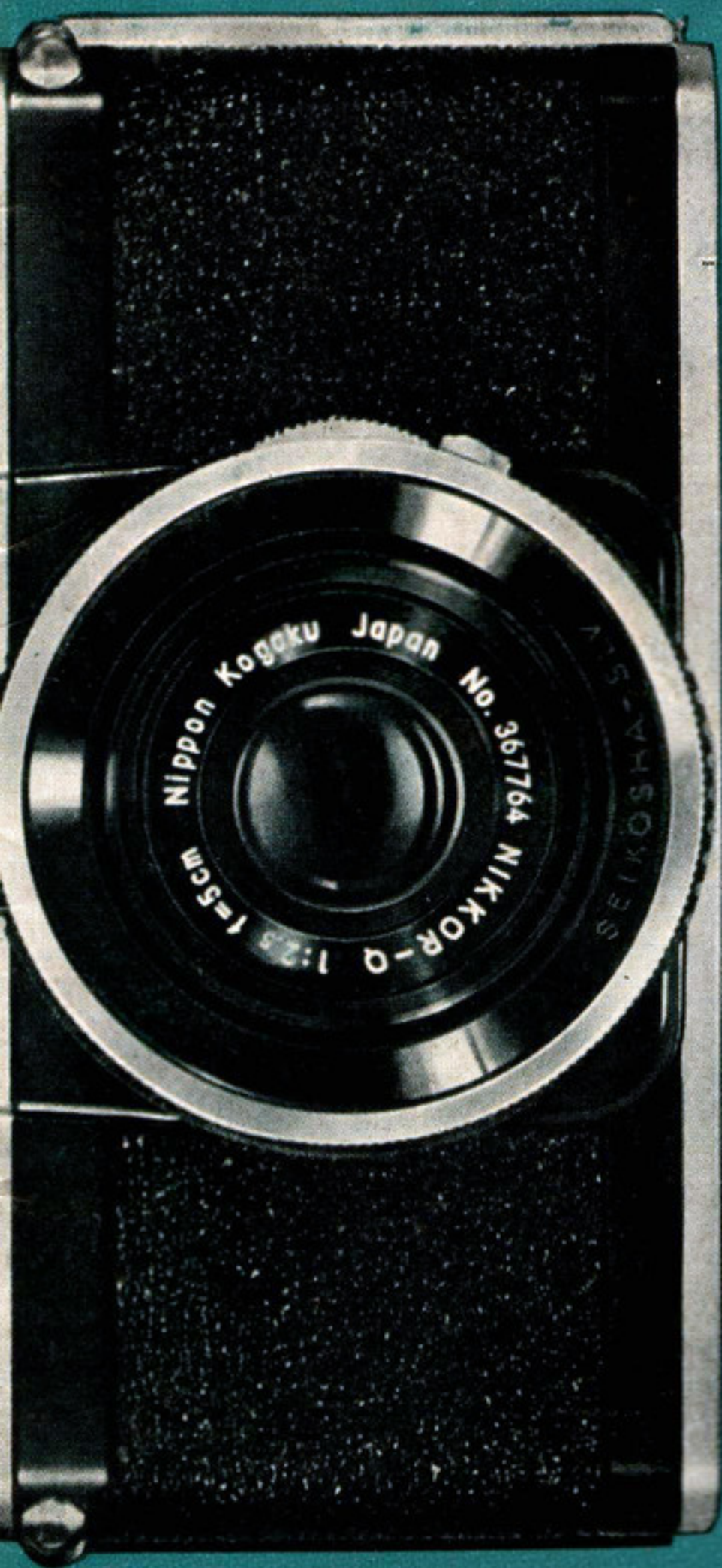


NIKKOREX **35**₂

ニコレッタックスの使い方



お買上げに際して

このたびは、ニコレックス 35/2 型をお買上げいただきありがとうございます。

このカメラは日本光学が近代的な生産設備と、すぐれた技術陣のタレントを結集して完成したレンズシャッター式の一眼レフです。このカメラが誇る数々のすばらしい機能と世界的名声を誇るニッコールレンズが、いまからあなたの撮影の夢を実現いたします。

つねに適切な取り扱いと手入れによって、いつまでもご愛用くださるようお願いいたします。

ニコレックス 35/2 型の特長

ニコレックス 35/2 型はどなたでも撮影を楽しめます。

あらゆる撮影に適した、驚異的解像力のニッコール 50mm F:2.5 レンズ付きです。

世界で初めてつくられたニコン・ボロミラーシステムにより構図・ピント・露出がひと目で決まります。

1. 一眼レフ式のファインダーですから、見たままの映像が狂いなくうつせて、構図を見誤ることがありません。
2. 明るく見やすいスプリットイメージ式距離計で、すばやくピント合わせが行なえます。
3. ファインダーを見ながら、適正露出が決められます。この3つのファインダー機構が、快適なカメラワークをお約束いたします。

シャッタースピードと絞りに完全連動する電気露出計が適正露出を決定いたします。

完全自動絞り機構が、いつもファインダーの明るさを確保いたします。

接写レンズとコンバージョンレンズで、接写と広角や望遠の撮影が行なえます。

もくじ

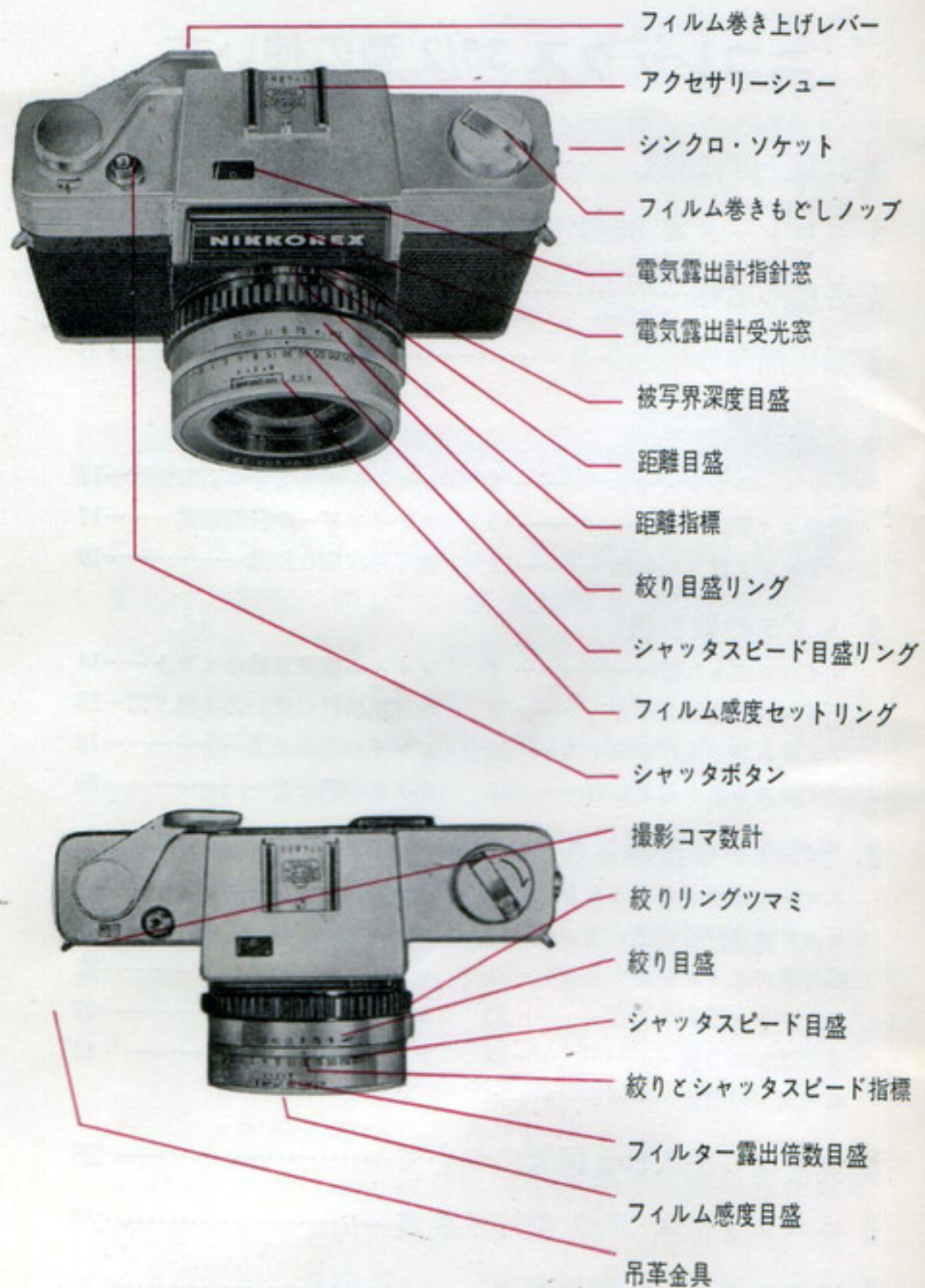
写真を上手にうつすためにはカメラの機能をよく知ることそしてよく慣れることです。

ニコレックス 35/2 型の使い方

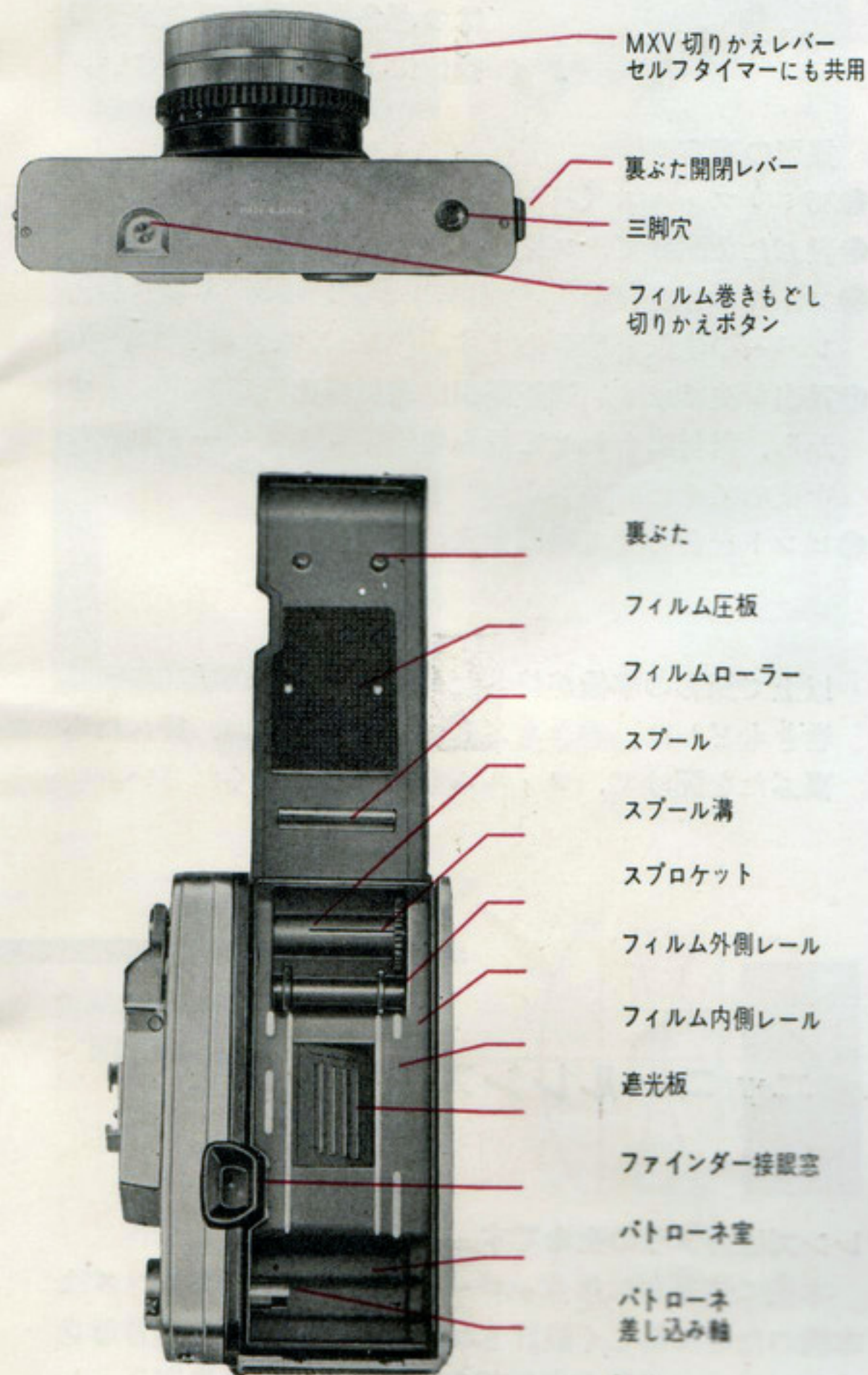
§ お買上げに際して	1
§ ニコレックス 35/2 型の特長	1
§ 各部の名称	3・4
§ 撮影操作の早わかり	5・6
§ 各部機構の解説	
ニッコールレンズについて	5
シャッターを切るときの自動機構	17
撮影コマ数計	10
ファインダーの自動機構	17
シャッターと絞りの知識	12
被写界深度の知識	19
§ カメラの取り扱い	
フィルムの入れ方	7
フィルム感度目盛のセット	14
フィルムの巻き上げ方	9
電気露出計の使い方と測り方	15
フィルム巻き上げの確め方	10
ピントの合わせ方	18
フィルムの巻きもどし方	11
カメラの構え方	20
§ そのほかの機構とうつし方	
スローシャッターを使うとき	17
接写の方法	25
セルフタイマーの使い方	21
フィルターの使い方	26
赤外線フィルムを使うとき	21
レンズフードについて	27
フラッシュ撮影の方法	22
ケースについて	27
望遠撮影の方法	23
カメラ番号メモ	28
広角撮影の方法	24
§ カメラの手入れと保管について	28
§ ニコレックス 35/2 型の性能表	29
§ アクセサリーの定価表	30
§ 本社とサービスセンターの住所	30

■各ページのくわしい説明をよくお読みください。

各部の名称



各部の名称



撮影操作の早わかり

本機の撮影操作は簡単です。
はじめて写真を撮る方
はつぎの撮影順序でカメラの
操作によく慣れてください。

撮影の順序

- ① 35ミリフィルム（パトローネ入り）を使います。
- ② 裏ぶたを開けて、フィルムを入れます。
- ③ フィルム感度(ASA)を目盛にセットしMXV切りかえレバーの位置を確かめます。(MかXに合わせます。)
- ④ 露出を決めます。適正露出は電気露出計が測定しますから、指針に合わせて好みのシャッタースピードか絞りを決めてください。
- ⑤ ピントに合わせて構図を決めます。

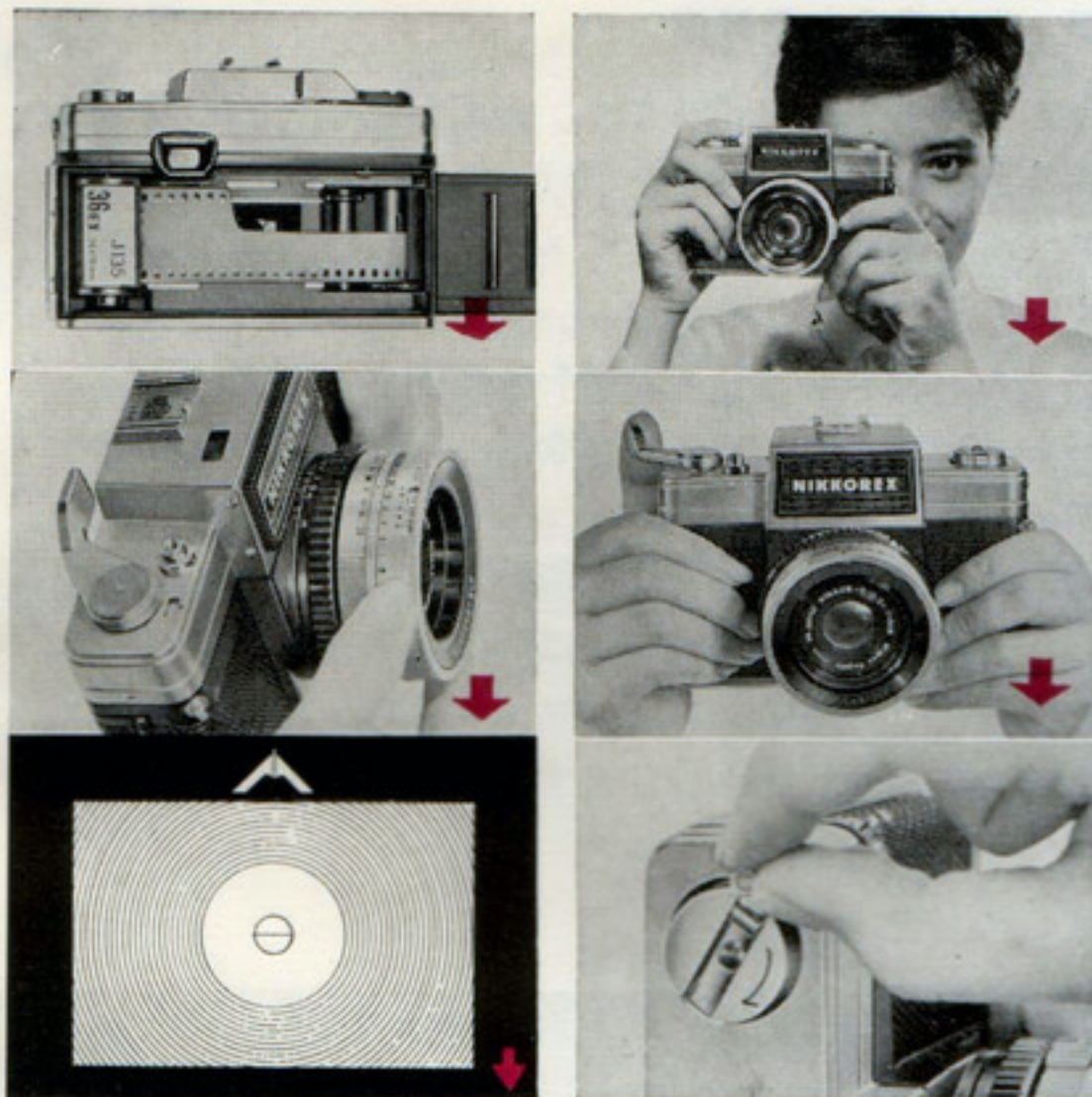
以上で撮影の準備が終ったわけです。
巻きもどしは、巻きもどしノブで行ない、終ったら裏ぶたを開けて、フィルムを取り出してください。

ニッコールレンズについて

レンズはカメラの生命です

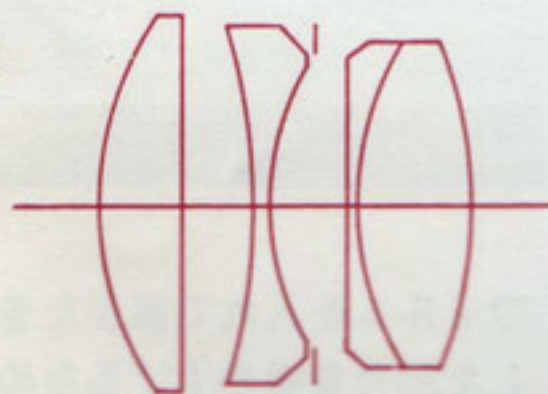
本機に装着されたニッコール 50mm F:2.5レンズは、本機のために新しく設計された3群4枚構成の優秀なレンズで、その解像力はあらゆる撮影に威力を発揮し、とくに35ミリカメラに要求される大倍率の引き伸しに適

—はじめて写真を撮る方のため—



☆撮影のすんだフィルムはなるべく早く現像するようにしましょう。

自動絞り付き
NIKKOR 50 mm
F:2.5 レンズ



(レンズ構成図)

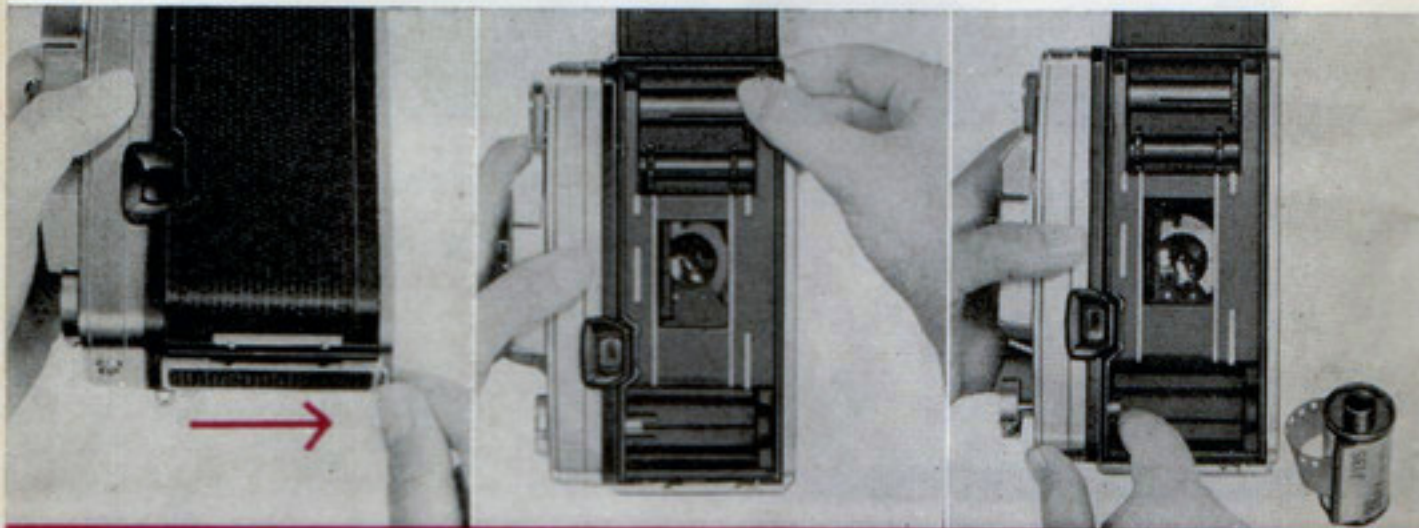
し、明快な写真を撮る事ができます。白黒写真はもちろんカラー撮影にも美しい色彩を再現いたします。

とくにフィルターはレンズの性能に最適なニコンフィルターをお使いください。

フィルムの入れ方

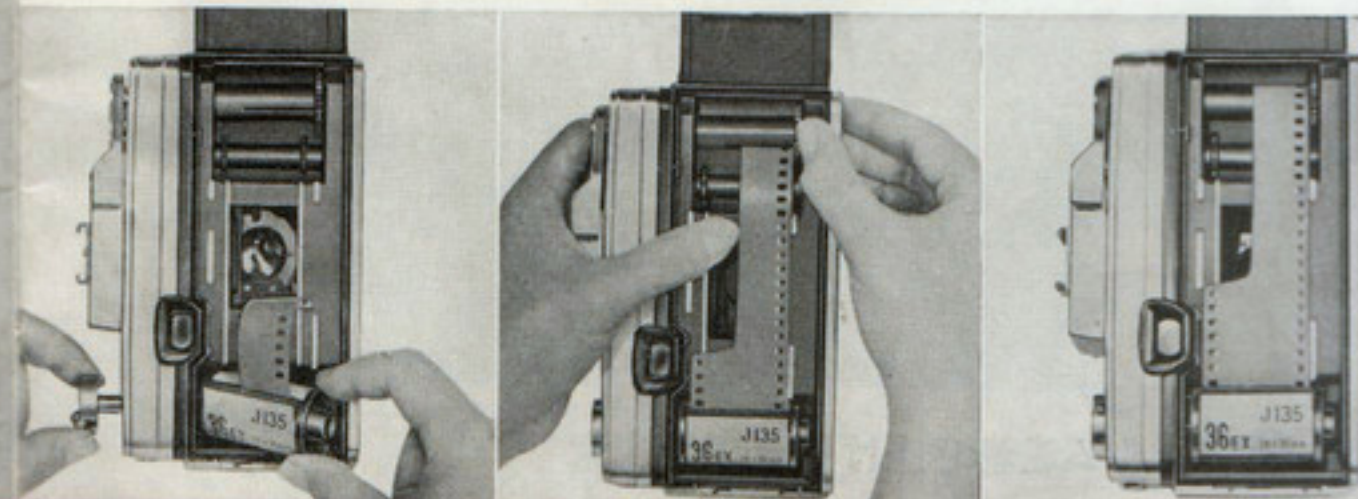
● フィルムを入れる順序

- ① カメラの裏ぶたを開けます。裏ぶたはボデーの横側にある裏ぶた開閉レバーを下げると開きます。
- ② スプールのゆびで動かしてスプールの溝を差し込みやすい位置に動かします。
- ③ フィルム巻きもどしノックを上へ引きだします。
- ④ パトローネを入れてノックをもとにもどし固定します。
- ⑤ 約10cmほどフィルムの先端をパトローネから引き出して、スプールの溝にいっぱい差し込みます。
- ⑥ 巻き上げレバーによって、フィルムを矢印の方向にスプールの1/2回転巻きつけます。



フィルムを入れて裏ぶたを閉めたら、フィルムに露光した部分を巻き上げるために、カラうつしを2回行なってから撮影をはじめます。

- ⑦ フィルムが正しく送られているかどうかを確かめてから裏ぶたを閉めます。
☆フィルムの両側にある穴（パーフォレーション）とフィルムを送る歯車（スプロケット）がよく噛み合っているかどうかを確かめます。
☆パトローネとスプールの間のフィルムがたるまないようにして、フィルム外側レールの内側に置かれているかどうかを確かめます。
- ⑧ 裏ぶたを押して閉めたら巻きもどしクランクを、巻きもどしクランクに書いてある矢印の方向に止まるまで回してパトローネのフィルムのたるみをなくします。



● フィルムを入れるときの注意

- ☆フィルムの取扱いは直射日光をさけて、日かげか暗いところで行なってください。ホコリやゴミや砂の多いところはさけてカメラの事故をふせぎましょう。
- ☆フィルムを入れたときは、かならずフィルム感度目盛をセットしてください。（14ページのフィルム感度目盛セットのところをお読みください。）

フィルムの巻き上げ方

フィルムを巻き上げると同時に、シャッターがセットされるセルフコッキング方式を採用しています。しかも巻き上げレバーは一作動ですからいかなる連続速写にも適します。

フィルムを巻き上げる順序

- ①右手の親指を巻き上げレバーにかけて、右の方へ止まるまで回します。
- ②親指をはなすと巻き上げレバーはもとにもどります。
- ③この操作でフィルムが1枚分送られ、同時にシャッターがセットされます。



● フィルムを巻き上げるときの注意

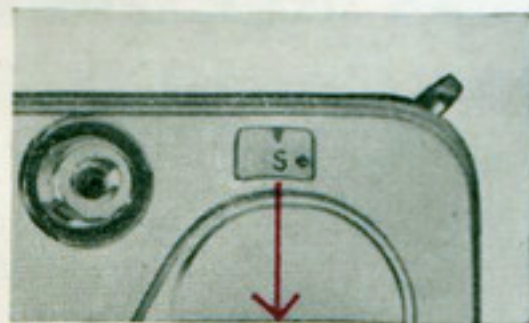
- ☆すでにフィルム巻き上げが終わっているときに、さらに巻き上げても巻き上げられません。このときに力を入れて無理に巻き上げることは愛機によくありません。
- ☆1本分をうつし終るときに、巻き上げレバーが途中で止まる場合があります。これは撮影するフィルムがなくなったことですから、巻き上げレバーをそのままにして巻きもどします。無理をして巻き上げレバーを強く巻き上げるとフィルムが切れたり、パトローネからフィルムがはずれて巻きもどしができなくなります。この場合は暗室で取り出すほかありません。

フィルム巻き上げの確かめ方

フィルムを巻き上げるときに、巻きもどしノブが矢印と反対の方向に回っているときは、巻きあげられています。巻きもどしノブが回らないときは、フィルムが巻き上げられていないことがありますから、一応つぎのことを確かめてください。

- ☆パトローネ内のフィルムがゆるんでいるとき。(巻きもどしノブを矢印の方向に回してしめつけます。)
- ☆スプールの溝にフィルムの先端が入っていないとき。(暗いところで裏ぶたを開けて調べます。)
- ☆フィルムのパーフォレーションが切れているとき。(暗いところで裏ぶたを開けて調べます。)

撮影コマ数計



フィルムを巻き上げるたびに表示窓の撮影コマ数目盛が動き撮影したフィルムの枚数を記録いたします



☆この撮影コマ数計の目盛はカメラの裏ぶたを開くと自動的にフィルムを入れたときの位置(S)にもどります。



☆フィルムを入れて裏ぶたを閉めカラうつしをして1の一コマ前まで進めておきます。

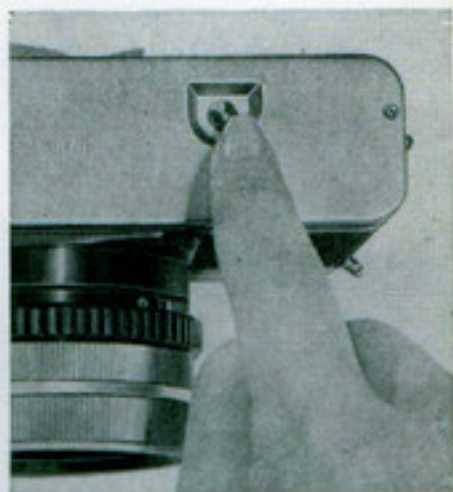


フィルムの巻きもどし方

フィルム全部の撮影が終了したら、かならずパトローネにフィルムを巻きもどします。そのまま裏ぶたを開けると、せっかくなつしたフィルムが露光してしまいます。

●巻きもどし方の順序

- ①カメラ底部の巻きもどしボタンを押します。
- ②巻きもどしノップのクランクをおこして矢印の方向へ回すと、フィルムはパトローネに巻きもどされます。
- ③巻きもどしが終わるころに軽い抵抗を感じ、フィルムの先端がスプールからはずれ、巻きもどしが軽くなります。
さらに、1~2回まわすと、フィルムは完全にパトローネに入ってしまうから裏ぶたを開けてパトローネを取り出します。



- ☆巻きもどしボタンは巻き上げレバーを動かすと、もとの状態にもどります。
- ☆裏ぶたを開けるのためにも、フィルムを入れるときと同じように直射日光をさけて日かげか暗いところで、ゴミやホコリに注意して行なってください。

露出を決めるために

シャッターと絞りの知識

シャッターと絞りはたがいに関連してレンズをとおす光の量を調節します。



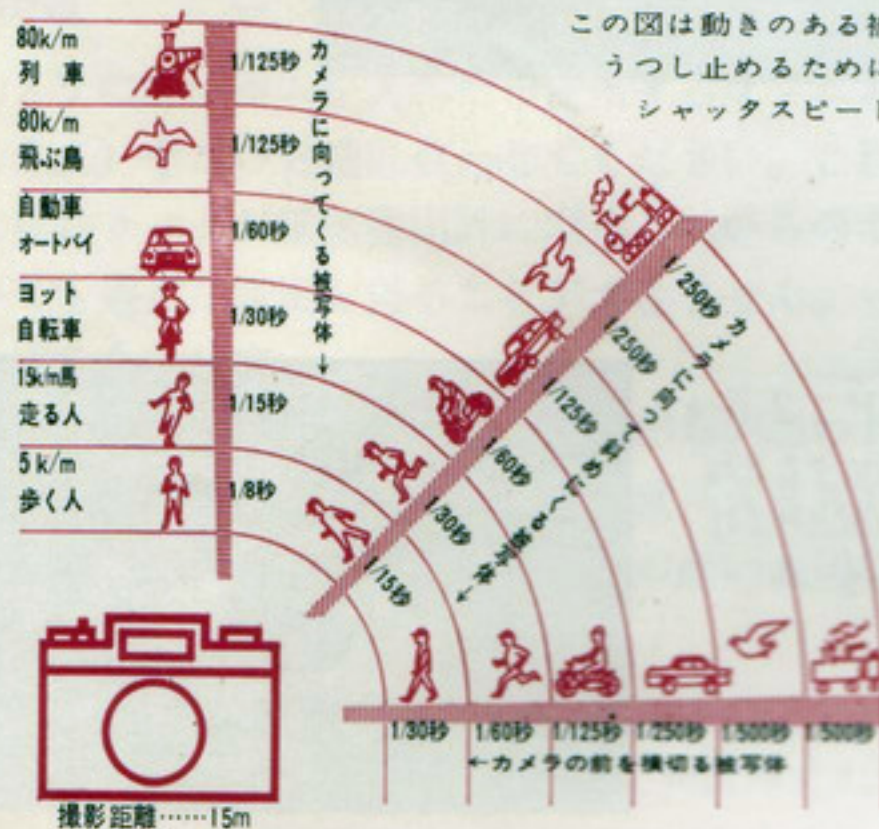
●シャッタースピード

シャッターの役目は、フィルムに達する光の量を時間的に調節することと、被写体の動きを止めることです。

本機には、このようなシャッターの役目を完全にはたすセイコーシャSLVシャッターが装着されています。シャッタースピード(11段変速)はB(バルブ)からはじまり、1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒、 $\frac{1}{4}$ 秒、 $\frac{1}{8}$ 秒、…… $\frac{1}{125}$ 秒、 $\frac{1}{250}$ 秒、 $\frac{1}{500}$ 秒と順次 $\frac{1}{2}$ ごとに速くなっています。本機の日盛数字はその分母でしめしてあります。

- シャッターは、被写体の光量調節もしますが、高速シャッターを使って、被写体の動きを止めたり、スローシャッターを使って動感を表現したりすることもできます。この機能を知ってあらゆる撮影に役立ててください。

☆シャッタースピード目盛はクリックストップ式ですから目盛を指標に合わせると止まります。



●絞り目盛

絞りの役目は、フィルムに達する光の量を、絞りが開閉する面積で調節することと、ピントの合う範囲（被写界深度）を調節することです。

本機の絞り目盛リングには、F:2.5からF:22まで8段階に目盛がきざんであります。絞りの数値が大きくなればなるほど、絞りの面積（口径）は小さくなり、それだけレンズをとおる光の量が少なくなります。しかもこの絞りはシャッタースピードと同じく倍数系列になっていますから、一目盛開けば、フィルムにあたる光の量は2倍になり、反対に一目盛絞れば $\frac{1}{2}$ になります。

☆絞りの目盛数値を指標（・印）に合わせるとそれぞれの光量に絞られます。



←F:22
小絞りにするとバック
まではつきりうつる

F:2.5→
絞りを開放にするとね
らつた被写体だけがは
つきりうつる



露出を決める順序

- ①フィルムの感度（ASA）を目盛にセットします。
- ②被写体に適したシャッタースピードを決めます。
☆たとえば明るいところでは $\frac{1}{125}$ 秒、暗いところでは $\frac{1}{30}$ 秒というように
- ③カメラを被写体に向けて絞りリングを回して、電気露出計の指針を指標（山型の中央）に合わせます。
☆シャッタースピードをさきに決めたときはこの順序でよいのですが、絞りをさきに決めたときはシャッタースピードリングを回して指針を指標に合わせます。
どちらでも指針は動きます
- ④指針が指標に合っているときが適正露出です。

フィルム感度 [ASA] 目盛の セット



カメラにフィルムを入れたら使用するフィルムの感度（ASA）をこの目盛に合わせてください。これを忘れると目盛リングが電気露出計に関連しているので指針が動いても適正な露出を得ることができません。

●目盛の合わせ方

シャッタースピードリングを押えながら、この目盛リングを回して、使用するフィルムの感度（ASA）たとえばフィルムがSSならば100を三角の赤い▲印に合わせるだけでセットできます。

☆この目盛の〔・2・4〕という・印と数字はフィルターを使うときの目盛です。（26ページをお読みください）

電気露出計の使い方

電気露出計の使い方を正確に知ってつねに適正露出の写真をうつしてください。



☆電気露出計の指針の動きはファインダー視野内上部の指標と、ボデーの上部の指標窓の2箇所で見ることができます。いずれも山型指標の中央部に指針を合わせます。

☆電気露出計の指針は、絞りリングを回すと同じ方向に回ります。またシャッタースピードリングを回しても動きます。ただしシャッタースピードは一目盛ごとにクリック方式で止まり、目盛の中間は使うことができません。したがって絞りリングを動かして露出を決めるようにおすすめします。



●適正露出の測り方

露出はシャッタースピードと絞りの両方の組み合わせでいろいろとかわられます。それは被写体の状態や天候によって変えなければなりません。

うつすときにはまず、被写体に適したシャッタースピードか絞りを決めて目盛を指標（・印）に合わせます。

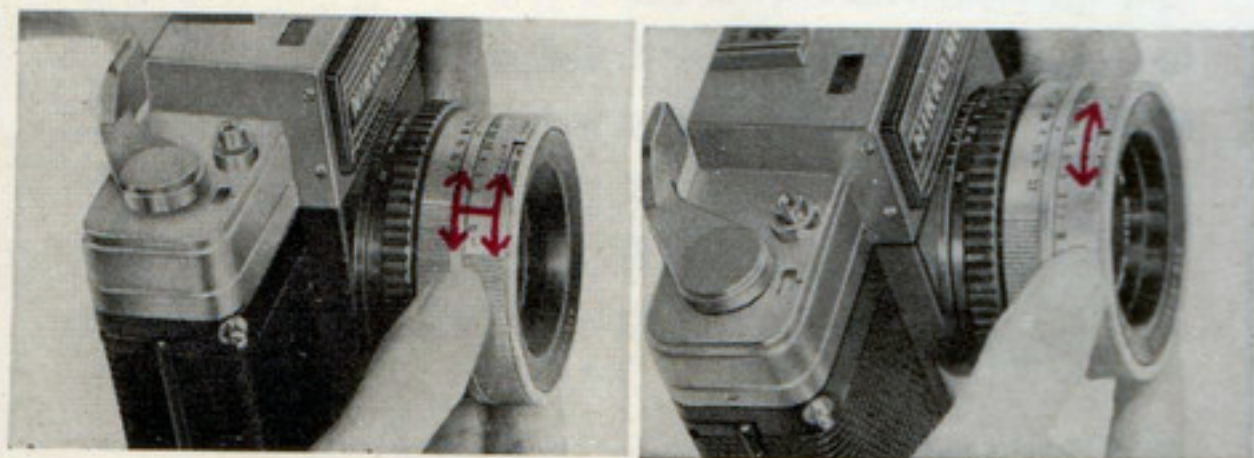
カメラを被写体に向けると電気露出計の指針がボデーの表示窓かファインダーの内部で動きます。

シャッタースピードと絞りリングは別々に動きますから、セットしない方のリングを動かしながら山型の指標に指針を合わせてください。指針が指標に合ったときが

適正露出です。しかし、最初に合わせたシャッタースピードか絞りで指針がよく動かないとき、また指針がピンピン動きすぎるときは、故障ではありません。それは最初に合わせた目盛が電気露出計の連動範囲外にあるので合わせた目盛を変えてください。

また指針が指標に合っても被写体に適さないシャッタースピードか絞りのときは、写真のようにシャッタースピードリングと絞りリングをいっしょにもって回すと指針は動かずシャッタースピードと絞りの組み合わせがかわられます。

これはシャッタースピードと絞りが連動していく組かの組み合わせをつくっているからでその範囲内ならば同じ露光量の露出となります。



バルブ(B)の露出

☆露出が1秒以上になるときは、シャッタースピード目盛のBを指標に合わせます。Bにセットするとシャッターはシャッターボタンを押している間だけ開きます。押している時間が露出時間となります。

☆シャッタースピード目盛をBに合わせたときに、電気露出計の指針が指標に合えば、必要な露出時間は2秒であることが示されます。

撮影の知識

●ファインダーを見るとききの自動機構

フィルム巻上げレバーを一回操作すると、つぎの一連の動作が自動的に、しかも瞬間に行なわれます。

- ①遮光板が閉まりフィルムに達する光が遮光されます。
- ②レンズの絞りが開放（F：2.5の明るさ）になります。（自動絞り機構）
- ③シャッターが全開します。
- ④レンズから入った光は、ニコン・ポロミラーシステムによって、フィルムにうつる画像と同じ映像がファインダー視野に見られます。
- ⑤フィルムが1枚分送られシャッターがセットされます。

●シャッターを切るとききの自動機構

シャッターボタンを押すとつぎの一連の動作が自動的にしかも瞬時に行なわれます。

- ①シャッターがいったん閉ります。
- ②開放だった絞りは最初にセットした絞値に絞られます。
- ③シャッターはセットした速度で開閉します。
- ④ファインダー視野が暗くなって光がフィルムに達します。
- ⑤遮光板が閉ります。

☆ファインダー視野が暗いときはフィルムが巻き上げられていないときです。

●スローシャッターを使うとき

$1/30$ 秒より遅いシャッタースピードを使う撮影や、接写や望遠撮影では、とにかくカメラブレがおきやすいものです。こんなときに、三脚とケーブルレリーズを使って撮影すればカメラブレは防げます。ケーブルレリーズはシャッターボタンの穴に、三脚はカメラ底部の三脚穴に、それぞれねじ込んで取り付けます。

ピントの合わせ方

フィルムを巻き上げるとファインダーが明るくなりますから、それから、ピントを合わせます。ピント合わせはファインダー中央円形のスプリットイメージ式距離計で行ないます。



ピントが合ったとき



ピントが合わないとき



ファインダーを見ながら焦準リングをまわすと、ファインダー視野の映像が鮮明になり、同時に距離計内の上下像のずれが動いて、正しく合致します。この上下像が合致したときがピントの合った場合です。

このような上下像合致式では、被写体の縦の線に合わせれば合わせ易く、横線の多い被写体のときはカメラを縦位置に構えると合わせ易くなります。

本機は一眼レフですから、ファインダーにパララックスがなく、画面いっぱい構図が決めます。また望遠・広角・接写レンズを使うときもピント合わせは同じに行ないます。

なおカメラから被写体までの距離を知りたいときは、焦準リング上の距離目盛を白線指標で読みとります。同時に絞りと同じ色で色別された被写界深度目盛で被写界深度がわかります。この目盛は標準50mmレンズの被写界深度です。（つぎのページをお読みください。）

被写界深度の知識

レンズはある一点にピントを合わせるとその前後の一定範囲にピントが合う性質をもっています。このピントの合う範囲を被写界深度といいます。その性質はつぎのとおりです。

①焦点を合わせた距離の前方に浅く、後方に深い。②同じ絞りならば、遠距離にピントを合わせたときほど深くなる。③絞りが大きいほど浅く、小さいほど深い。④同じ絞りならば、レンズの焦点距離が長いほど浅く、短いほど深い。

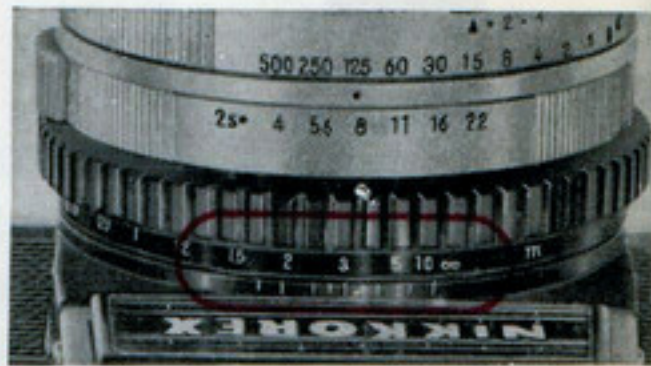
☆本機の被写界深度目盛は絞り目盛と同じ色で色分けされていますから同色の線内がピントの合う範囲です。



F: 8に絞った場合: カメラから2.5mの植木と、4m後方の樹木までの間(撮影距離 3m) 1.5mの範囲にピントが合います。

たとえばカメラから被写体までの距離を3mとしますと、距離目盛の数字3を白色の距離指標に合わせます。絞りをF: 8に絞ったとするとF: 8の色はオレンジ色ですから、この場合の焦点深度は深度目盛の両側のオレンジ色の線によって読みとれます。つまり、4m~2.5mまでの間にピントが合うことになり、3mの前方0.5mと後方1mの間の被写体が鮮明にうつることになります。

この被写界深度を効果的に使えば、作画表現の幅を、さらにひろげることができます。ポートレートや静物の場合は、絞りを開いて被写界深度を浅くすれば、背景がボケてやわらかく表現され、被写体だけがはっきりうつり、反対に、スナップの場合は絞りを小さくして、被写界深度を深くすればシャッターチャンスを逃がしません。



カメラの構え方

●正しいカメラの構え方、使い方は撮影の基本です。

小型軽量の35ミリカメラでは、画面が小さいので、構え方がしっかりしていないと画面のブレが目立ちやすく、せっかくの高性能も発揮できません。つねに安定した姿勢を身につけるように心がけてください。

●横位置の構え方

両手でカメラをしっかり持ち、右手の人さしゆびはシャッターボタン、親ゆびは巻上げレバー、左手はカメラの底を持って、ゆびを焦準リングにあてます。



こうして持つとピント合わせからシャッターを押してフィルムを巻き上げるまでの操作がすばやく行なえます。

カメラをささえる手に力を入れすぎるとカメラブレの原因になりますから適当な力で自然に持ってください。

●縦位置の構え方

うつしやすい横位置にくらべて縦位置の撮影は、比較的うつしにくいようですが、被写体によって縦位置の必要もありますから練習でよくなれてください。縦位置の構え方は、横位置の構えからそのまま縦位置に構える方法

もありますが、本機では、シャッターボタンを下にして構えた方がフィルムの巻上げに便利です。

どんな構え方をしても、眼はファインダー接眼窓の中心に置いて、なるべくカメラが顔に密着するように軽く押しあてて撮影してください。なれると $\frac{1}{2}$ 秒や $\frac{1}{4}$ 秒でもカメラブレせずにうつせるようになります。



そのほかの撮影機構とうつし方

● セルフタイマーの使い方

セルフタイマーは、自動的にシャッターが切れる時限装置です。自分で自分をうつす撮影や記念撮影に役立ちます。またスローシャッターを使う場合のカメラブレを防ぐためにもご利用ください。撮影のときはレバーをV印に下げてシャッターボタンを押せば、ジーという小さな音をたてて作動し、約8～10秒後に自動的にシャッターが切れます。レバーをそのままにしておくといつでもセルフタイマーがかかってしまうので使わないときはかならずMかXの位置にもどしてください。

☆セルフタイマーは巻き上げの前後に関係なくセットでき、レバーをV印からはずすだけで解除できます。

☆バルブ(B)にはシャッターの構造上作動いたしません。



←セルフタイマーレバーのセット

● 赤外線フィルムを使うとき

赤外線フィルムは波長の関係から、一般撮影のときよりピントの合う距離が多少ずれるので修正を要します。

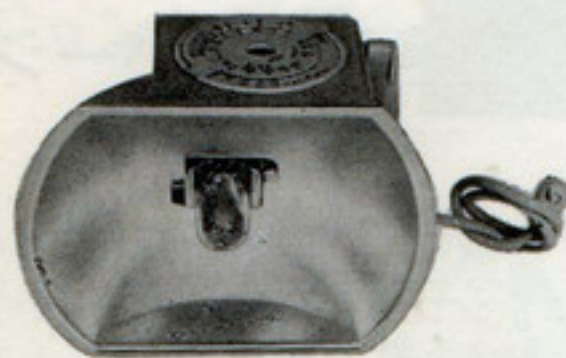
このために、距離目盛指標（白線）の近くに赤外マークが赤丸でしめされています。ピントの合わせ方は一般撮影と同じ方法で行ない、ピントを合わせたときに被写体までの距離を距離目盛リング上の数値で読みとってからこの数値を赤外マークの赤丸にずらして撮影します。

赤外マークの位置→



フラッシュ撮影

フラッシュ撮影には日本光学のBC-6型フラッシュガンをお使いください。（市販されているフラッシュガンでも使えます。）まず、フラッシュガンのコードの先にあるプラグをシンクロソケット（JIS B式）に差し込み、使用する閃光電球の種類によってMXV切りかえレバーをMかXに切りかえます。（Vはセルフタイマー用です）。なお、閃光電球の種類には、Mクラス球とFクラス球の2種類とストロボがあります。いずれも本機に使うことができますが、閃光電球の種類と接点によって使い方がちがいますから、下の表を読んでからフラッシュ撮影を行なってください。

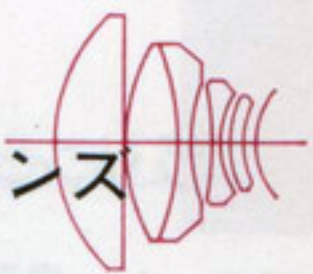


種類	接点	
	M 接点	X 接点
Mクラス球	B.1~1/500秒の全スピードに完全同調します	B.1~1/80秒までの全スピードに完全同調します
Fクラス球	不 適 当	B.1~1/80秒まで同調し高速には同調しません
ストロボ	不 適 当	B.1~1/500秒までの全スピードに完全同調します

- なおBC-6型にはFクラスの球は使えません。
- MXV切りかえレバーの位置は不用意に動かさないようにしてください。
- セルフタイマーを使ってフラッシュ撮影をするときはV印に合わせてX接点として使えます。



望遠用コンバージョンレンズ

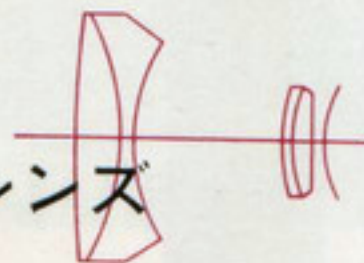


本機には、望遠撮影が楽しめる専用の望遠用コンバージョンレンズが用意されています。風景、ポートレート、スポーツ、動物などの撮影で、被写体に近づかないで、被写体を大きくうつしたい場合がありますが、このときに、望遠用コンバージョンレンズ (NIKKOREX-Tele) をレンズ前面にねじ込んでご使用になれば望遠撮影の効果を発揮し、その画像は同一地点からの撮影で標準の場合に対して1.8倍拡大された像が得られます。もちろんピント合わせも、構図の決定も一般撮影と同じにできます。ただしレンズの性質上、絞りはF:5.6以上に絞ってください。またカメラの距離目盛はそのままで正しい距離をしめしませんから、被写体との距離を知りたいときは下の換算表をご覧ください。

距離目盛 上の距離	実際の距離	距離目盛 上の距離	実際の距離
m	m	ft. in.	ft. in.
∞	∞	∞	∞
30	32.7	30'	98'
5	16.3	15'	49'
3	9.7	10'	32'
2	6.4	7'	22' 6"
1.5	4.8	5'	15' 11"
1.2	3.8	4'	12' 7"
1.0	3.1	3' 6"	10' 11"
0.9	2.8	3'	9' 4"
0.8	2.5	2' 6"	7' 8"
0.7	2.1	2'	6' 1/8"
0.6	1.8		



広角用コンバージョンレンズ



望遠の場合と同じように、本機には専用の広角用コンバージョンレンズが用意されています。室内のせまい場所での撮影や建築物の撮影など広範囲の撮影に役立ちます。広角用コンバージョンレンズ (NIKKOREX-Wide) をレンズ前面にねじ込んでいただければ標準の場合に対して、画角が1.5倍広くなり広角撮影の効果を発揮いたします。ピント合わせも、構図の決定も、一般撮影と同じにできます。ただし、レンズの性質上絞りはF:5.6以上に絞ってください、このレンズをご使用になるときは、被写体との距離がカメラの目盛とちがいますから下の換算表をご覧ください。なおコンバージョンレンズの装着はねじ込み式で、ねじ込んでいくとカチカチと軽快な音がしますからそこで止めます。これで装着は確実ですからそれ以上カチカチねじ込む必要はありません。

距離目盛 上の距離	実際の距離	距離目盛 上の距離	実際の距離
m	m	ft. in.	ft. in.
∞	∞	∞	∞
10	5.2	30'	16'
5	2.6	15'	8'
3	1.6	10'	5' 4"
2	1.1	7'	3' 10"
1.5	0.8	5'	2' 3"
1.2	0.7	4'	2'
1.0	0.6	3' 6"	2'
0.9	0.52	3'	1' 9"
0.8	0.47	2' 6"	1' 6"
0.7	0.41	2'	1' 3"
0.6	0.36		

☆望遠・広角用コンバージョンレンズに使うフィルターは専用のニコンフィルター (69mm) をお使いください。



接写レンズ



本機の標準レンズは最短距離 60cm から無限遠(∞)までうつせますがそれより近い被写体をうつすときは専用の接写レンズを使えば 35cm まで接写ができます。

● 取り付け方と注意

☆取り付け方は簡単で、接写レンズをレンズの前面にねじ込むだけで接写ができます。

☆ピントの合わせ方や構図の決定は一般撮影と同じように行なえます。接写レンズを使うときは被写界深度が極たんにせまくなるので、絞りを F : 5.6 以上に絞ってお使いください。



フィルター



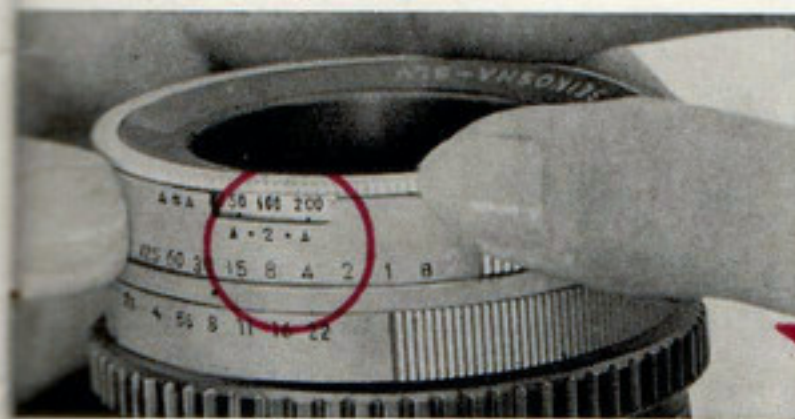
フィルターは、余分な光や強すぎる光をカットし必要な光だけをとおす役目をもっています。自然の色彩や明暗感を写真にするためにご利用ください。

本機のフィルターは40.5mm(P=0.75mm)で、つぎの表のようにニコンフィルター各種が用意されていますから、なるべくニコンフィルターをお使いください。

(当社製以外のフィルターについては保証をいたしかねます)

種類	記号	露出倍数		
		昼光	電灯 (タングステン光)	
黄色	淡中濃	Y43, Y44, Y45	1.5	1
		Y47, Y48, Y49	1.7	1.2
		Y51, Y52, Y53	2	1.5
オレンジ色		O55, O56, O57	3	1.5
赤色		R59, R60, R61	6	—
緑色	淡濃	X0	2	1.7
		X1	—	2
紫外線		L38, L36, L40	1	1

・この表の露出倍数(フィルターファクター)は中位感度のパンクロフィルムに対する概略の値です。この表を参考にして露出倍数を決めてください。



フィルターを使う
ときには、露出を
変えてください。

露出倍数のセッティング

フィルターを使うときはフィルターの露出倍数目盛にフィルム感度数字をずらして露出を決めます。フィルターの露出倍数目盛はレンズ前部のフィルム感度指標の横に[▲・2・4]ときざまれています。▲印と2の間の・印は1.5倍、2は2倍、2と4の間の・印は3倍、4は4倍です。たとえば、ASA 100のフィルムを使って露出倍数が2倍のフィルターを使うとき100の数字を▲印から2のところまでずらしてから露出を決めます。

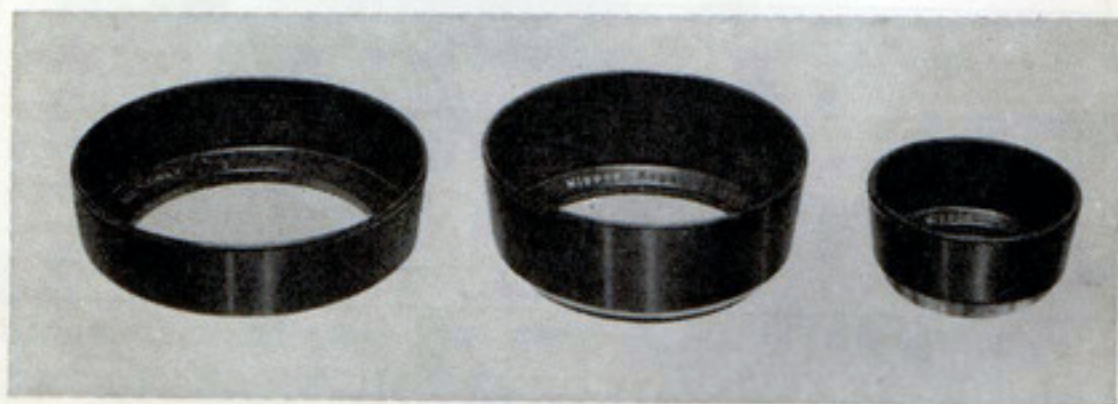
☆フィルターをはずしたときは、かならずフィルム感度目盛をもとにもどすことを忘れないでください。

レンズフード



レンズフードは、不要な光線を防ぎ、明快な写真を仕上げるために役立ちます。とくに逆光の場合、そのほか降雨、降雪など、あらゆる撮影条件や天候に必要ですから、つねにレンズフードを付けてお使いください。

本機のレンズフードは、ねじ込み式でレンズの前面にねじ込むだけで使えます。また、フィルター(40.5mm)や接写レンズを取り付けた上にも取り付けることができます。望遠用および広角用のコンバージョンレンズには69mmのレンズフードが用意されています。



速写ケース



本機の速写ケースは丈夫で使いやすくカメラの底の止め金をしめて取り付けます。速写ケースはソフトケースとハードケースの2種類あり、いずれもケースに入れたまま三脚も使えます。

カメラの手入れと保管について

カメラの手入れはつぎの撮影の準備です。ご使用のあとはいつもきれいに手入れと掃除をいたしましょう。

- 内部に入ったゴミや砂は、フィルムの膜面にキズをつけますから、筆かハケではらってください。
- レンズはむやみにふかないでください。かわいたきれいな筆かハケでゴミをはらう程度にとどめてください。
- よりよい保存はカメラの寿命を長くします。湿気の多いところや、ホコリのたかるようなところにしまわないようにしましょう。
- お手もとのレンズとボデーの番号をひかえておくこともお忘れなく。
- 万一の故障にシロウト療法は禁物です。ただちに、お買上げの店か、本社サービス課または各地の当社サービス・センターにお持ちください。

カメラ番号・保証番号メモ

保証番号	No.	購入年月日	年 月 日
ボデー番号	No.	レンズ番号	No.
コンバージョンレンズ番号	望遠No.	広角No.	
住所氏名			

ニコレックス 35/2 型の性能

レンズ/自動絞り付きニッコール50mm F:2.5(3群4枚)

シャッター/セイコーシャ SLV B.1~ $1/500$ 秒

11段変速倍数系列式 セルフタイマー付き

ファインダー/ニコン・ポロミラーシステムによる一眼

レフ式 フレネルレンズとコンデンサーレンズによる

明るい視野 スプリットイメージ式距離計付き

焦点調節/直進ヘリコイド式無限遠~60cmの撮影可能

電気露出計/内蔵式 シャッターと絞りに完全連動 測定

は指針で行ないファインダー内部とボデー上部に表示

シンクロ接点/MXフルシンクロ JIS B式ソケット

フィルム巻き上げ/130°回転一作動レバー式 二重露出

防止 フィルム巻き上げによるミラーの自動復元

巻きもどし/クランク式 Rボタン(自動復元式)付き

フィルム感度目盛/10~1,600 (ASA)

被写界深度目盛/絞り値に応じて色別 上部一覧式

撮影コマ数計/裏ぶた開閉による自動復元・順算方式

フィルム画面サイズ/24×36mm(35ミリフィルム使用)

その他/ボタン式シャッターレリーズ(ケーブル用ねじ穴

付き)標準型アクセサリシュー付き

レンズ交換/専用コンバージョンレンズで望遠・広角撮

影と接写が可能

大きさと重さ/大きさ 138×95×74mm 重さ:約850g

ニコレックス 35/2 型用アクセサリ一定価表

望遠用コンバージョンレンズ 90mm F:5.6...¥6,500

〈4群5枚構成・最短撮影距離 1.8m (6ft.)〉

広角用コンバージョンレンズ 35mm F:5.6...¥5,000

〈2群4枚構成・最短撮影距離36cm (1¼ft)〉

接写レンズ 〈撮影距離60cm~35cm (2ft~1ft)〉 ¥500

フィルター 標準レンズ用 (40.5mm).....¥ 700

コンバージョンレンズ用(69mm) ¥2,000

レンズフード 標準レンズ用 (ねじ込み式).....¥ 300

コンバージョンレンズ用(ねじ込み式) ¥ 500

フラッシュガンBC-6型 一式.....¥1,500

同上用 バッテリー MV10 (15V).....¥ 150



日本光学工業株式会社

本 社 東京都中央区日本橋通1-7 (日本橋西川ビル)

電 話 (272) 大代表 3311

大井製作所

東京都品川区大井森前町5447 電話(771)2111-3111

新丸ビルサービスセンター

東京都千代田区丸の内1丁目新丸ビル1階 電話(271)4978-5000

大阪サービスセンター

大阪市北区梅田7番地大阪駅前梅田ビル5階 電話(361)2256-7

名古屋サービスセンター

名古屋市中村区広井町3-88大名古屋ビル5階 電話名古屋(54)7676-7766

札幌サービスセンター

札幌市大通り西1-13大通ビル2階 電話札幌(5)7896-7308

福岡サービスセンター

福岡市天神町58 天神ビル6階 電話福岡(25)6002-9000

株式会社 課

東京都千代田区丸の内1丁目東京海上ビル新館8階 電話(212)1601-1600



日本光学工業株式会社

